

# 越えてつながる

若桜町立若桜中学校

若桜中学校では、平成24年度の小中一貫校の開校に向けて、小学校と合同で準備を進めています。本年度は小中学校の教員が相互に出かけて授業を行ったり、文化活動発表会や仲間づくりの行事を一緒に行ったりしながら、連続性を踏まえ、より豊かな学びと人格形成をめざした教育活動のあり方を検討してきました。



## ◇小中合同チーム・ティーチング◇

効果的な協働のあり方を見つけることをねらいとして小中学校の教員が互いの授業を参観し合ったり、チーム・ティーチングで授業を行ったりしました。

～授業者の感想から～

### 【小学校音楽の授業に入った中学校教員】

「小学校の先生との連携の中で、授業スタイルが違い戸惑いましたが、よりよい授業づくりについて話し合



いました。児童の前でヴァイオリンを演奏したところ、生で聞く音色や、演奏方法や音の響きなど他楽器との違いにとっても興味を持ち、真剣に鑑賞してくれました。」

### 【国語の授業を小学校教員と行った中学校教員】

「『文の成分』の授業では、小学校4年生で担任をしていただいた先生にT2として入ってもらい、主語・述語の関係について授業の導入で確認していただきました。その後も机間指導を通して、配慮の必要な生徒に個別の支援をしていただきました。」

## ◇9年間を見通したカリキュラムづくり◇

小中学校の教員が教科ごとに協力し「教科構想図」を作成中です。これは児童生徒の実態や教科でつけた力をもとに9年間で前期（4年）・中期（3年）・後期（2年）の3つに分け、それぞれの時期に応じて指導の重点を具体的に表したものです。教科ごとに1枚のシートに構造化することによって、一目で学びの系統性を理解できるようになっています。

この構想図を年間指導計画の作成に生かすことにより、9年間を見通して子どもたちを育成することができます。

## ◇異学年交流活動◇

自己肯定感（自信、自覚、有用感）の育成を目的として、中学校2年生のミニトランポリンを使った授業に小学校3年生が参加しました。



～生徒の感想から～

「小学生3人に教えるのは大変で、時間も足りなかったけど、『楽しかった。もう一度したい。』とってくれたので、とてもうれしかったです。」

授業を核にした協働により、小中教職員間に一体感・連帯感が生まれています。「義務教育9年間で育てる」という考え方のもと、小学校と中学校の教職員で教育課程の見直しと改善を図ることは、新しい学校文化を創造し、めざす児童生徒像の実現につながります。